

さいたま新都心 将来ビジョン 概要版

平成 26 年 3 月

さいたま市



策定の目的

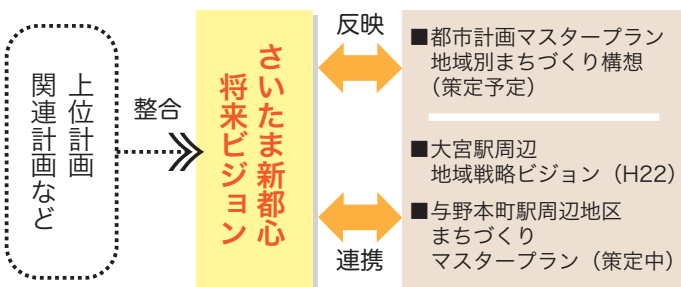
さいたま新都心地区は、首都機能の分担、埼玉県を中心とする自立性の高い新都心の実現と併せて、ヒト・モノ・情報が行き交い、活気に満ちた都市空間の実現を目指して、平成12年に街びらきが行われました。

しかしながら、都市基盤整備がほぼ完了した現在においても、当初のまちづくりの目標達成に関しては、課題を残しています。

そこで、これまでのまちづくりの成果や社会情勢などに加え、さいたま新都心地区の周辺における大規模な土地利用転換の動向を見据え、今後の持続可能なまちづくりに資するべく、さらなる安心・安全とにぎわいを創出し、良好な都市環境の形成に向けた取組の検討を行います。

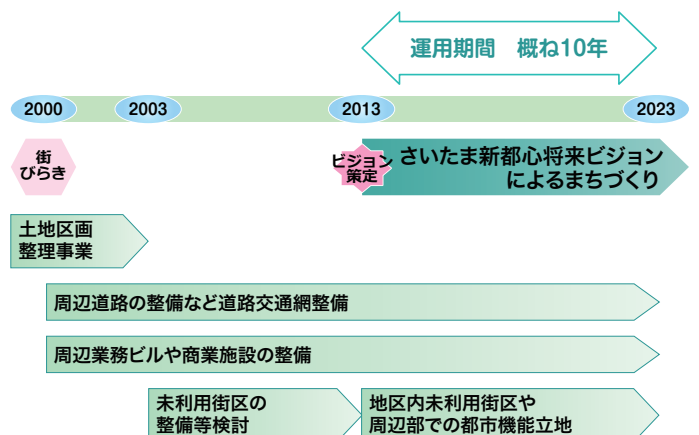
位置づけ

本ビジョンは市の総合振興計画や都市計画マスタープランをはじめ、国、県、市の上位計画及び関連計画と整合を図り、今後のさいたま新都心周辺地区のまちづくりの基本的な指針としての役割を担います。さらに本ビジョンの検討区域に隣接する周辺地域の個別計画等と相互に連携、反映することを目指します。



ビジョンの運用期間

運用期間は概ね10年程度を見込みますが、運用期間が経過した時点で必要に応じて見直しを検討するものとします。



検討対象区域

本ビジョンの検討対象区域は、北側を南大通り東線、東側を産業道路、南側を赤山東線、西側を国道17号と北与野駅周辺で囲む、赤線で示した区域です。面積は約200ヘクタールです。

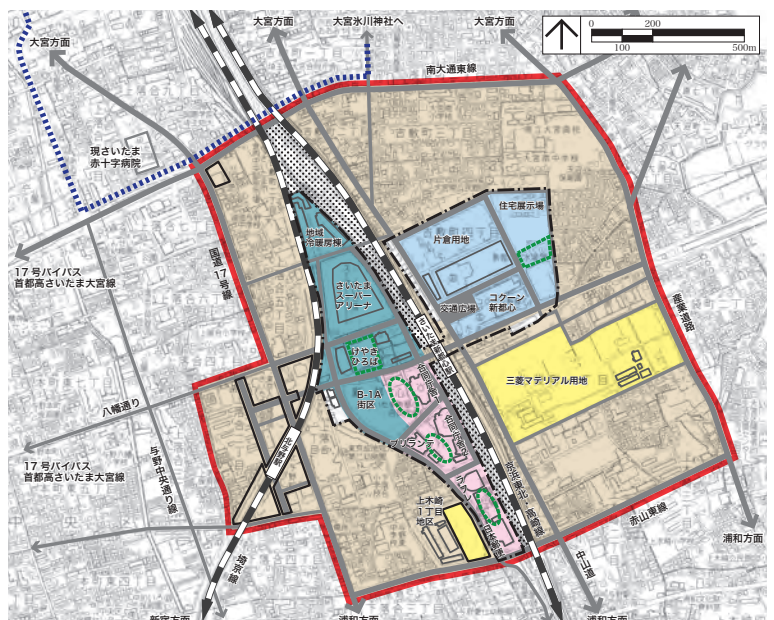
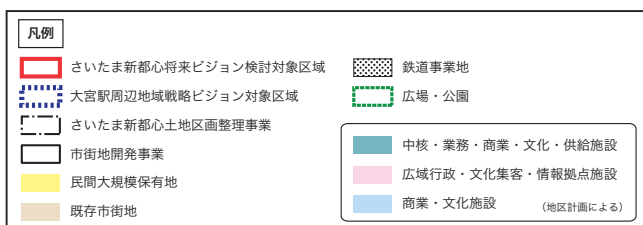
※本ビジョンにおいては、以下のように地区名称を定義します。

さいたま新都心: 街の名称

さいたま新都心地区: さいたま新都心土地地区画整理事業区域

さいたま新都心周辺地区: さいたま新都心将来ビジョンの検討区域

(右図参照)



課 題

[illegible]

①大規模な土地利用転換により、大宮駅周辺などの都市機能との連携や機能分担を図り、多様な機能集積を誘導

土地区画整理事業による基盤整備で、広域行政機能をはじめとした様々な都市機能が立地している一方、大規模な土地利用転換により、既存の都市機能や大宮駅周辺などにおける都市機能との連携や機能分担を図り、多様な機能集積を誘導することが必要です。

**②大宮駅周辺地区との一体的な都心の形成に向け、
回遊動線を確保**

さいたま新都心地区内は歩行者デッキなどが整備されているものの、大宮駅周辺地区などとの十分な回遊性が確保されていないため、一体的な都心形成に向けて回遊動線の確保が必要です。また、回遊する楽しみの創出や景観形成、住環境の向上といった視点からみどりのネットワークの充実が必要です。

③人々が行き交う、新たなにぎわいの創出

さいたま新都心周辺の土地利用転換によって、就業の場が創出され、就業人口が増加し、首都圏及び国内外の様々な人が訪れるような、にぎわいのある地区にすることが必要です。

④大宮駅周辺と交通拠点機能を分担し、さらなる交通拠点性の向上

大宮駅周辺での交通拠点としての容量が飽和している状況を緩和するため、さいたま新都心において、交通拠点機能の一部を分担することが必要です。

また、さいたま新都心及びその周辺に立地する地域資源を活用し、都市型観光の振興を図るとともに商業施設や業務施設の効果的な立地が図られるよう、さらなる交通拠点性の向上が必要です。

安心・安全に関すること

⑤大規模震災を踏まえた、防災機能の強化・充実

東日本大震災の発生により、危機管理のあり方が社会的に重要視されていることから、防災機能の強化・充実に向け、大規模災害発生時の一時避難場所と活動拠点となるオープンスペースの確保が必要です。

また、さいたま新都心周辺地区の就業者の帰宅困難対策、地域防災を補完する機能が必要です。

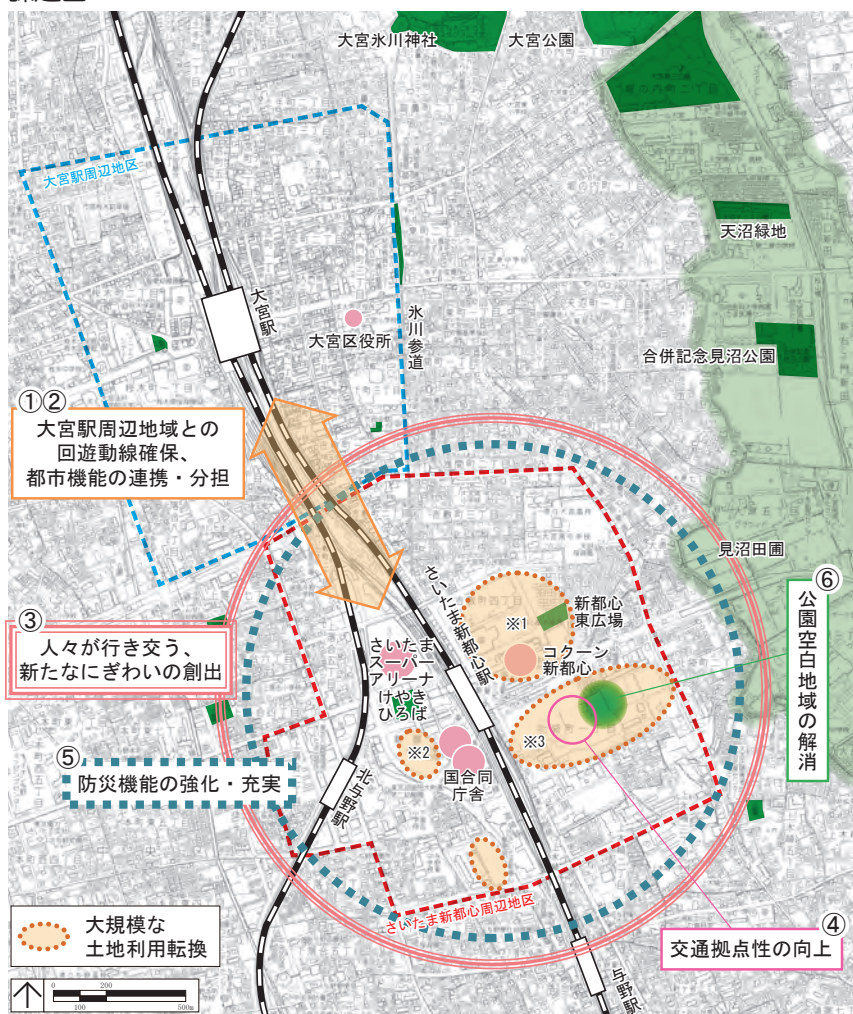
公園・おどろきに関すること

⑥公園空白地域の解消とみどりのネットワークの整備

さいたま新都心駅東側には、新都心東
広場があるものの、歩いて行ける範囲に
身近な公園が不足している公園空白地域
であるため、みどりの憩い空間の整備が
必要です。

また、植栽の間隔が広いなど、みどりの配置が十分でない箇所があり、みどりの連続性を創出することが必要です。

課題図



※1:片倉用地(13、14、16、17街区)については、既存商業施設などが操業しており、今後さらに、商業・業務施設などの開発計画があります。

※2：8-1A街区については、病院の整備計画があります。

※3：三菱マテリアル用地は、造幣局、大宮警察署の整備計画があります。

さいたま新都心の将来像（目標）と施策

さいたま新都心地区は、東日本の交通の要衝である大宮駅に隣接し、交通の利便性が高く、国の合同庁舎などの行政機能が集積しています。このような地域特性を踏まえ、周辺地区において広域的な機能面の充実を図ることにより、産業、文化・芸術、学習などの都市活動、防災意識の高まりへの対応、都市のみどりなどの向上を目指し、本市の都心にふさわしいまちづくりに取り組みます。以下に将来像と施策を示します。

目標（１）：広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち

さいたま新都心周辺地区内で進められる大規模な土地利用転換の適正な誘導を図り、大宮駅周辺地区などとの連携と機能分担の下で、都市活動の拠点として、にぎわいあふれるまちを目指します。

目標実現に向けた施策

- 大規模な土地利用転換の適正な誘導により、新たな都市機能を集積
 - 既存の都市機能と新しい都市機能の効果的な活用が図られるよう、相互の回遊動線の整備を検討
 - 多様な交通手段により、大宮駅周辺地区との連携、機能の補完関係を強化
 - 交通拠点性を高める新たな交通広場の整備を検討
- ⇒ 先導プロジェクト 1 (p6) を参照

目標（２）：広域的な安心・安全を担うまち

さいたま新都心は、国の 10 省庁 14 機関やさいたまスーパーアリーナが整備されており、広域防災機能を有しています。その機能を強化充実するため、大規模災害発生時の一時避難場所と活動拠点となるオープンスペースの整備に取り組むなど、安心・安全を担うまちを目指します。

目標実現に向けた施策

- 広域防災拠点の機能を補完するオープンスペースの整備を検討⇒先導プロジェクト 2 (p7) 参照
- 災害拠点病院整備の促進

目標（３）：豊かなみどりと都市機能が融合するまち

見沼田圃、氷川の杜、氷川参道、中山道のけやき並木などみどりの地域資源を生かし、みどりのつながりや回遊性の創出、公園空白地域の解消に取り組むなど、みどりと都市機能が融合する持続可能なまちを目指します。

目標実現に向けた施策

- 大規模な土地利用転換とあわせて、公園・緑地を整備するとともに、さいたま新都心から見沼田圃、さらに中山道から氷川参道へと緑化空間をつなげ、地区の骨格的な景観を形成するみどりのネットワーク整備を検討
- ⇒先導プロジェクト 3 (p8) を参照



さいたまスーパーアリーナ



国合同庁舎



けやきひろば

**大宮駅周辺地域戦略ビジョン
対象エリア**

大宮氷川神社

まちづくりの目標

- (1) 広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち
- (2) 広域的な安心・安全を担うまち
- (3) 豊かなみどりと都市機能が融合するまち

新たな回遊軸の整備

民間などによる土地利用転換の促進

見沼田圃

災害時の医療拠点となる病院の整備

と人が集まる機能強化拠点（公園・緑地）の整備

浦和駅方面

与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン検討エリア

目標1		目標2		目標3	
[オレンジ色]	にぎわいの拠点	[水色の点線]	広域防災・医療拠点等	[緑色]	公園・広場・オープンスペース
[ピンク色の矢印]	デッキによる回遊軸（点線は計画線）	[鉄道の記号]	鉄道	[緑色の二重矢印]	みどりのネットワーク（点線は計画線）
[黄色い矢印]	大宮駅周辺地区との連携軸	[道路の記号]	道路（点線は計画道路）		
[赤い点線の輪]	公共公益施設（交通広場等）				